

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：82628

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2015

課題番号：24730262

研究課題名(和文) 家族内の対立と互惠行動に関する経済理論分析

研究課題名(英文) An Economic Analysis of Family Conflicts and Reciprocal Behaviors

研究代表者

暮石 渉 (Kureishi, Wataru)

国立社会保障・人口問題研究所・社会保障応用分析研究部・第4室長

研究者番号：00509341

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、きょうだいのみならず、家族の他の成員の戦略的相互依存関係を理論的に明らかにし、実証分析への展開と社会保障政策や家族政策への応用のための理論な基盤を確立することを目的としていた。

「未婚女子と予備的貯蓄の関係」について研究を行い、査読付き英文雑誌に論文What motivates single women to save? the case of Japanを掲載した。また、家族間の戦略的相互依存と介護について研究を行い、論文「家族介護は介護者の健康を悪化させるのか？」を『季刊個人金融』に掲載した。

研究成果の概要(英文)：This research project aims to clarify theoretically the strategical interactions among family members and to establish a basis for developments to empirical analyses and applications to the social security and family policy.

(1) I conducted an analysis on the relation between single women and precautionary savings, and the paper titled "What motivates single women to save? the case of Japan" was published in a peer reviewed English journal. (2) I conducted an analysis on familial strategic behaviors and long-term care, which was published in Quarterly of Personal Finance.

研究分野：Economics

キーワード：きょうだい 家族 貯蓄 社会保障

1. 研究開始当初の背景

申請者は最近、日本の子の居住地決定や親との同居決定が、きょうだい間の戦略的相互依存によって決定されていることを見いだした。

上記の具体的な目的の1に関して、申請者は論文 (Kureishi and Wakabayashi (Jap World Econ, 2010)) で、複数のきょうだいによる居住地決定を逐次手番のゲームでモデル化した。つまり、第一子と第二子は、親から子育て支援を得るため、次の三段階のゲームを行う：第1ステージと第2ステージで第一子と第二子が逐次的に居住地を決め、最後の第3ステージで親が第一子と第二子に子育て援助を行う。バックワード・インダクションによりサブゲーム完全均衡を求めると、第一子は親と同居するか親の近くに住み、第二子は親から遠くにすむことがわかった。この結果は、日本のマイクロデータである「家族に関する全国調査 (1998, 2003)」を用いた推定によって支持されている。

この研究は、すでに、ヨーロッパの介護に関するポリシーペーパーや日本における親から子への世代間移転に関するサーベイ論文で取り上げられている。また、きょうだい間の対立に関しては、Konrad et al (AER, 2002) がドイツにおける居住地の選択に関して逐次手番のゲーム分析を行ったのをはじめとして、Chang and Wiseman (South Econ J, 2005) が非協力ゲームを用いてふたりのきょうだいが親からの金銭的移転をめぐる競争するモデルを分析するなど、活発に研究が行われているが、実証分析への展開に関しても検討すべきことが多い。

2. 研究の目的

本研究は、きょうだいのみならず、家族の他の成員の戦略的相互依存関係を理論的に明らかにし、実証分析への展開と社会保障政策や家族政策への応用のための理論な基盤を確立することが目的である。

(本研究の具体的な目的)

- 1) きょうだいによる家業や家族資産の継承のモデル化と実証仮説・政策的含意の導出
- 2) 夫側の祖父母と妻側の祖父母による世代間移転のモデル化と実証仮説・政策的含意の導出

近年の少子化、高齢化の急速な進展によって家族や人口、結婚に関する研究は世界中で盛んに行われている。家族内の対立に関しても、本計画で扱うきょうだい間や夫の親と妻の親の間のみならず、親子間や夫婦間での対立が数多く研究されている。

きょうだい間の対立に関しては、申請者や申請者の共同研究者が、日本で先駆けてゲーム理論を用いてモデル化し理論的に分析を

行った。論文発表前から国内外で研究を展開してきたため、ヨーロッパの介護に関するポリシーペーパーや日本における親から子への世代間移転に関するサーベイ論文で取り上げられるなど高い評価を得ていると考える。また、夫側の祖父母と妻側の祖父母の対立に関しても、実証的に得られた予備的な結果はすでに被引用を得るなど注目されている。

このように研究が進んでいる家族内の対立に関する研究であるが、きょうだい間の対立に関しては実証仮説および政策インプリケーションの導出がなされていなかったり、夫側の祖父母と妻側の祖父母による対立では、理論的な分析がなされていなかったりと、まだまだ不十分な点が多く残されている。本研究では、きょうだい間の対立に関して家業や家族資産の継承争いを取り上げ、実証仮説および政策インプリケーションの導出に取り組み。また、夫側の祖父母と妻側の祖父母の対立に関しては予備的な実証研究が進んでおり研究期間内に本計画を達成可能な準備を整えている。

このように本研究計画によって、家族内の対立に関して、基礎的な理論モデルの構築から実証仮説および政策インプリケーションの導出までの一貫した研究の基盤を確立できると考える。

3. 研究の方法

本研究計画では、

- 1) きょうだいによる家業や家族資産の継承
- 2) 夫側の祖父母と妻側の祖父母による世代間移転

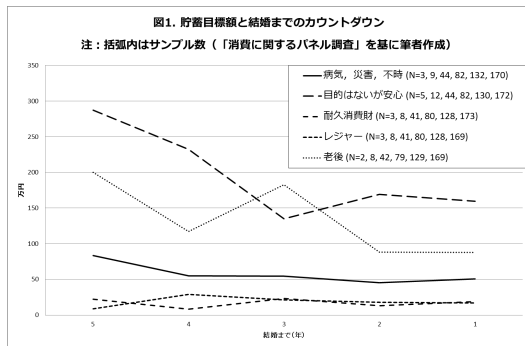
の二つの研究を平行して行う。

申請者はこれまで複数のきょうだいによる居住地決定を逐次手番のゲームでモデル化したり、「消費生活に関するパネル調査」を使って夫側の祖父母と妻側の祖父母の対立を実証的に分析を子なってきた。本研究では、きょうだいによる家業や家族資産の継承と夫側の祖父母と妻側の祖父母の対立とをターゲットにしてそれら行動のパターンをゲーム理論的に明らかにし、実証仮説と社会保障政策や家族政策へのインプリケーションの導出を行う。

4. 研究成果

「未婚女性と予備的貯蓄の関係」および、「夫婦の家計管理と家計貯蓄の関係」について研究を進め、前者に関しては査読付き英文雑誌に論文 What motivates single women to save?

the case of Japan を掲載した。この論文の結果は、将来に結婚する見込みが低い独身女性は、見込みが高い独身女性よりも、予備的な目的からの貯蓄をより多く保有するという実証仮説を支持するものである。つまり、クロスセクション分析において、3年後に結婚していない独身女性は、3年後に結婚している独身女性と比較して、病気、災害その他不時の出費に備えるための貯蓄目標額が58.6万円高く、特に目的はないが貯蓄をしていたら安心だからという理由で保有する貯蓄目標額が162.4万円高いことがわかった。またパネル分析においても、3年後に結婚していない独身女性は、3年後に結婚している独身女性と比較して、病気、災害その他不時の出費に備えるための貯蓄目標額が43.4万円高いという結果を得た。これらの結果は、独身のままでいる不安から独身女性が予備的な貯蓄をより多く保有したいと思っていると解釈することができるということである。



また、家族間の戦略的相互依存と介護について研究を行い、論文「家族介護は介護者の健康を悪化させるのか？」を『季刊個人金融』に掲載した。この論文では、介護保険が導入されて15年が経過した今でも家族介護の果たす役割が大きいことに着目し、家族介護の負担が介護者の健康に悪影響を与えているという仮説を検証する。使用するデータは、「第1回くらしと健康の調査（JSTAR）」2)で、分析手法は配偶者の親の要介護度を操作変数に用いた操作変数法である。配偶者の親の要介護度は、その親に対して介護を行うかどうかに影響するが、介護者の健康には直接には影響を与えないという事実を利用するということである。

分析の結果、家族介護の負担が、主要な家族介護の担い手である妻に身体的・精神的に悪影響を与えていることがわかった(表1)。妻が配偶者の親へ介護をおこなうと、妻の主観的健康感が悪くなり、抑うつ度が限界的ではあるものの高くなるからである。一方、夫の場合だと、配偶者の親に介護を行なったとしても、主観的健康感や抑うつ度に影響を及ぼさない。この結果は、配偶者の親を介護する場合、女性のほうが男性よりも介護負担が

健康に悪影響を与えるというものである。

アウトカム変数	妻の主観的不健康度	夫の主観的不健康度	妻の抑うつ度	夫の抑うつ度
	妻による夫の親への介護	夫による妻の親への介護	妻による夫の親への介護	夫による妻の親への介護
介護しているかどうか	0.709 *** (0.269)	0.457 (0.469)	2.426 † (1.564)	0.517 (2.665)
遺産をもらう予定か	0.080 (0.190)	-	0.186 (1.167)	-
介護する親の年齢	0.004 (0.017)	0.002 (0.010)	-0.064 (0.098)	-0.061 (0.054)
本人の年齢	0.046 ** (0.020)	0.027 * (0.013)	-0.002 (0.123)	0.062 (0.084)
配偶者の年齢	-0.037 * (0.021)	-0.025 ** (0.013)	0.027 (0.145)	-0.161 * (0.096)
本人の学歴	0.037 (0.036)	-0.065 *** (0.020)	0.484 ** (0.243)	-0.069 (0.106)
配偶者の学歴	-0.082 *** (0.028)	0.051 * (0.028)	-0.429 ** (0.183)	-0.275 * (0.168)
本人就労している	-0.138 (0.139)	-0.350 *** (0.137)	1.564 * (0.818)	-1.658 * (0.924)
配偶者就労している	0.131 (0.222)	-0.012 (0.093)	-1.174 (1.098)	-0.093 (0.533)
夫が自営業	0.020 (0.137)	-0.094 (0.100)	-0.916 (0.901)	0.108 (0.543)
定数項	1.960 (1.433)	2.345 *** (0.755)	14.875 * (8.341)	27.386 *** (5.568)
標本の大きさ	310	615	310	615
F(10, 299)	2.400	4.000	1.100	1.250
Prob > F	0.009	0.000	0.363	0.261
Centered R2	0.010	0.039	0.031	0.044
Uncentered R2	0.834	0.840	0.776	0.810
Root MSE	1.024	0.993	6.271	5.565
Total (centered) SS	328.287	631.327	12580.077	19915.815
Total (uncentered) S	1959.000	3782.000	54526.000	100458.000
Residual SS	325.136	606.926	12189.553	19047.731

表：義理の親への介護が介護者の健康状態に与える影響

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

若林緑, 暮石涉「家族介護は介護者の健康を悪化させるのか? 配偶者の親の要介護度を操作変数に使用して」季刊 個人金融 2016 年春号 56-65, 査読なし

https://yu-cho-f.jp/publication/personalfinance/summary/2016spring/feature_articles05-2.html

暮石涉, 殷亭「退職後の消費支出の低下についての一考察」, 『季刊家計経済研究』, 第105号(2015.1), 368-381, 査読なし

http://dl.dropbox.com/u/88984691/journal/jjrhe/pdf/105/105_02.pdf

Wataru KUREISHI and Midori WAKABAYASHI "What motivates single women to save? the case of Japan", Review of Economics of the Household, 11(4): 681-704, (2013), 査読有り DOI: 10.1007/s11150-013-9191-z

Wataru KUREISHI and Keiko YOSHIDA "Does Viewing Television Affect the Academic Performance of Children?", Social Science Japan Journal, 16(1): 87-105 (2013), 査読有り

doi: 10.1093/ssjj/jys020

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

暮石 渉 (Wataru KUREISHI)
国立社会保障・人口問題研究所 社会保障応
用分析研究部 第4室長

研究者番号：00509341

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：